

Flair

Magazine of Teikyo
Alternative Life

[フレア]

TAKE FREE

vol.92

December 2013 Winter
THE TEIKYO SELF

contents

- 02 THIS IS MY STYLE.
こんな風に、暮らします。
- 11 SPECIAL CONTENTS.
みんなの大学祭。
- 15 TEACHER'S STYLE.
先生に聞きたいあれこれ。
- 16 GOOD HEALTH
健康が、いちばん。
- 17 WHAT'S UP?
いま、何やってる？
- 18 FLAIR WORKSHOP.
ワクワク企画が満載です。
- 22 NOTICE BOARD.
大学からのお知らせです。

特集 学生たちの 「自分流」



www.teikyo-u.ac.jp



name: 松本輝一さん class: 経済学部 経済学科 grade: 3 hobby: カメラ



Kiichi Matsumoto

no. 65

徐々に軌道に乗ってきた学生チューターの映像班。学生チューターとして活動中の松本さんが所属するのは、大学関連の映像を作る「映像班」。写真が好きな彼は「映像にも興味があつて志願した」と話す。昨年この班が新設された時に集まったのは、それらに触れたことのないメンバーばかりだった。「僕もさほど知識はありませんで

したが、勉強して、右も左も分からないメンバーを教育するところから始めたんです。ここ1年は、ベース作りに費やしました」歩みは遅くとも、軌道に乗ってきた実感はある。「それぞれが自主的に学び、技術力をつけてきています。みんなが頑張ってくれているから、まだ引退はできないです」と松本さん。今後彼らがどんなアイデアを映像にしてくれるのか、楽しみです。



お金を貯めて買った2台目のカメラ。将来の夢は「東京オリンピックで活躍するスポーツカメラマン」だ。

THIS IS MY STYLE.

こんな風に、暮らしています。

photograph: TAKEHIRO GOTO [no.65,68], KENTARO OSHIO [no.66], KAZUHARU IGARASHI (ALASKA) [no.67] text: SATOKO NAKANO [no.65,no.68], TAKAYUKI TSUBAKI (Mo-Green) [no.66], RIE OCHI [no.67]

name: 岸原生幸さん class: 福岡医療技術学部 理学療法学科 grade: 2 hobby: バイク



Takayuki Kishihara

no. 67

学友会活動で身につけたコミュニケーションの力。

患者さんに信頼される理学療法士をめざしている岸原さん。きっかけは、高校生の時に病院見学で理学療法士の仕事を発見したこと、祖父の入院だった。「リハビリを担当してくれた方の印象がとても強く、理学療法士になりたいと思っただけです。人見知りの祖父が笑顔で接していて、信

頼しているんだなと感じて

勉強の傍ら、学友会学生会長も務めてきた岸原さん。帝京祭をはじめ、スポーツ大会などさまざまな行事で奔走してきた。「いろんな人や先輩、先生と関わりが持てて楽しいです。人前は苦手だったけど、コミュニケーション能力ができました」

「リハビリを担当してくれた方の印象がとても強く、理学療法士になりたいと思っただけです。人見知りの祖父が笑顔で接していて、信



帝京祭の実行委員達と作ったオリジナルパーカー。プロテイン君というゆるキャラがデザインされている。

先輩からの教えをしっかりと伝えたい。学科を越えた繋がりを持ちたくて、1年生から大学祭実行委員会に所属する高田さん。2年連続で広報局に在籍し、大学祭で配布するパンフレットを制作した。「大学祭」という共通の目標に向かつて、みんなが頑張るというところに惹かれました。実行委員の仲間には、授業や私生活

のことも相談します。学科が違うので、さまざまな視点からのアドバイスももらえるんです」来年は、広報局で唯一の3年生。これからは、教わる立場から教える立場に変わる。「今年は1年生がいなかったのですが、パンフレットの作り方を知っているのは私だけ。プレッシャーもありますが、先輩に教えてもらったことをしっかりと後輩に引き継ぎたいですね」



Tomoko Takada

no. 66



帝祭パンフレット。「今年度はパンフレットのイラストやデザインも任せてもらえて、やりがいを感じました」

地域の方々と触れ合いが教えてくれること。高校時代、倒れたお年寄りを気遣いながら助ける救急隊に遭遇し、その凛々しい姿に憧れて救急救命士をめざし始めた松井さん。今は救護ボランティアなどの活動に尽力するE.L.S.研究会のリーダーとして、多忙な毎日を送っている。「今年から、地域の方々にAED

の使用法や災害時の対処法などをレクチャーする活動も始めました。教えることの難しさを実感しながらも、皆さんが積極的に質問をしてくださるので僕たちも勉強になります」将来の夢は、高校時代に出会った救急隊のように周りの人を安心させてあげられる救急救命士。そのために必要な思いやりとは何か、地域の人と触れ合いながら日々学び続けている。

name: 松井源悟さん class: 医療技術学部 スポーツ医療学科 grade: 3 hobby: 野球

Kengo Matsui

no. 68



学外活動時に着る、サークルのユニフォーム。上級生が、救急救命のシンボルを模したデザインを考えた。



01

みんなの力で、
空を飛ぶ。

SkyProject
● 宇都宮キャンパス

学生たちの“自分流”を覗きました。

好きなことや夢中になれることに真剣に向き合いながら、人はそれぞれの“自分流”を育てていきます。学生たちの“自分流”は、どんな形で芽を出しているのでしょうか？

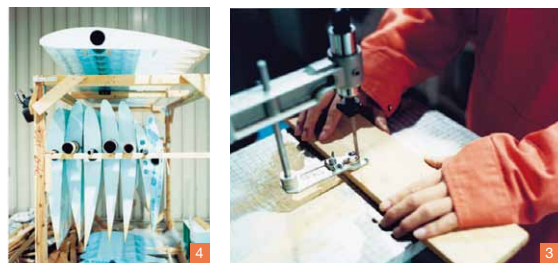
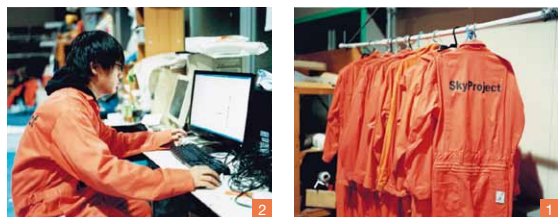
photograph: KENTARO OSHIO [01], JUNSUKE OBI [02], TAKEHIRO GOTO[03]
text: SATOKO NAKANO



目標はどこまでも
高く遠く～

「本番前は、準備でとにかくくたくたでした。でも、機体が飛んだ瞬間、疲れを忘れましたね」
飛行競技・鳥人間コンテスト出場をめざして機体を制作している「スカイプロジェクト」の代表・熊倉恒さんは、本番を振り返りそう語った。書類で落とされる団体も多い中で、彼らは今年、7年ぶり5度目の出場を実現したのである。本番までは足りないパーツを作ったり、不具合を修正したりと慌ただしい日々を過ごした部員たち。その甲斐あって彼らは、出場部門で4位

という輝かしい成績を手にした。「嬉しかったです。でも至らない部分もあったので、先輩に恥をかかせないように、来年に備えます」眠れぬ日々が続くほどの厳しい作業に、彼らはなぜ熱を注ぐのか。「飛んだ時の喜びが大きいから。もの作りの楽しさが、そこに詰まっているんです」と熊倉さん。そして彼らの活動を見守る顧問の渡部武夫先生からは「描いたものを作る過程では、難しさも感じるでしょう。でも、機体が出来上がれば『何事も不可能ではない』ことを実感できるはずですよ」という言葉が返ってきた。苦勞の末に得た達成感は、彼らの心に一生残る自信を育んでくれるだろう。



1.スカイプロジェクトのシンボルである、オレンジ色の作業着。卒業した先輩が残っていたものもちらほら。2.設計責任者の澤さんが、昨年の設計図をベースに課題部分などを改良していく。「有能なメンバーです」と熊倉さん。3.糸のこぎりで、部品の木を切る作業。難しい箇所以外の加工は、学生の手によって行われる。4.翼は発泡スチロール製で、上からビニールが巻かれている。支柱はカーボン素材。「機体については出場チームごとに微妙な素材の違いはあっても、ほとんどは作り方で素材の差をカバーするしかない」と熊倉さん。

特集 学生たちの “自分流”

今回のFlairの特集は、帝京大学のモットーでもある“自分流”。好きなこと、興味のあることのために、笑ったり泣いたりしながら一生懸命奮闘する学生たちの姿をご覧ください！

text: SATOKO NAKANO illustration: MAI BEPPU (p04-p10)

何かを成し遂げた人に憧れ、自分もそれに近づこうと努力する。そんな夢や目標を持った生き方は、とても素敵です。でも、たとえ誰かと同じゴールをめざしたとしても、きっとあなたはその人とは違うルートを辿るでしょう。もしかしたら、同じだと思っているゴールも他の人とは違う、あなただけのゴールかもしれません。それこそが“自分流”なのです。“自分流”とは、生き方の哲学そのもの。自分のなすべきことや興味あることを見つけ出し、個性を生かすために知識や技術を身につけ、自分の力として行動することです。帝京大学は開学以来ずっと“自分流”な生き方ができる学生を育てたいという思いのもと、サポートを続けてきました。ここで培った揺るぎない“自分流”は、社会に出てからも力強く生きていくための大きな力となるはず。周囲の環境が変わっても、不測の事態が起こっても、自分の足もとがしっかりしていれば、冷静に対処していけるはず。どんなことに対しても興味を持って取り組むことで、いつか「これだ!」と思うものにきっと出会えるはず。あなたもそんな“自分流”を見つけてみてください。



“自分流”って
なんだ!?

03

僕らの企画で、
大学を盛り上げる。

学生チューター 企画班
●八王子キャンパス



ハイタッチで、
みんな友達!



学生チューター 企画班の活動

ていーぼー

学生チューターが中心となり、八王子キャンパスのマスコットを公募。最終的に5点に絞り、学生・教職員の投票でデザインと愛称を決定した。今後も様々なところに出没する予定。



八王子ラーメン

「地元・八王子市に愛着を持とう」と、ご当地グルメ「八王子ラーメン」を学食で提供。学外の愛好会の方にもご協力いただき、味の改良を重ねて販売までこぎつけた。

ハイタッチ運動

朝、大学のバス停前で、学生とハイタッチをする運動を3年前より開始。スキップをはかることで、お互いが元気になれる。ほとんどの学生がハイタッチを返してくれるという。

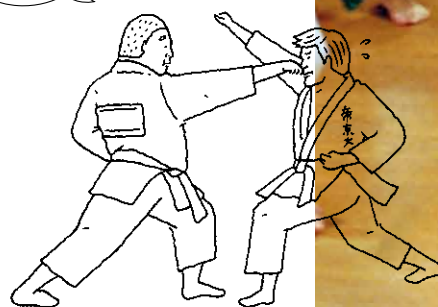


02

教えながら、
教わっている。

空手道部 空手教室
●八王子キャンパス

礼儀はしっかり。
でも、楽しく!



自分の空手道を顧み、
新たに学べるよい機会。

「力を入れて、もう一回」「押忍!」
空手道部の寮内から、子どもたちと学生の活気ある声が聞こえてくる。ここで開かれているのは、近隣の小中学生を対象にした空手教室。「地域貢献のために」と活動が始めてから、もう10年以上が経つ。「同じ教え方でも、わかる子とわからない子がいます。教え方に工夫が必要だと感じますね」
3年生の塚田晃成さんがそう話すように、部員たちは自分流の教え方を試行錯誤しながら教室に臨んでいるようだ。教えることが、自らの空手道を顧みるよい機会にも

なっている。それは、練習だけに留まらない。2年生の柴田将英さんは、和やかな休憩時間を経て「今日は、生徒とゲームの話をしました。休憩と練習のメリハリをつけることも、僕は大切だと思います」と笑った。「どんな時間を過ごすか」というところまで含めて、彼らの手で作られている教室なのだ。
子どもたちと向き合う中で、相手も気づく心も同時に生まれている。1年生の菊池那津実さんは「体調が悪くても、それを表に出さない子がいます。私が見抜けるようにならないと、いつも思います」と話してくれた。彼らは空手道を教えながら、同時に子どもたちから多くのことを教わっている。



1.日付と子どもの名前が書かれた出席簿。出欠を取るところから空手教室は始まる。2.「部員たちは優しさや厳しさ、我慢や楽しさなどを空手道から学んできました。それを教えながら思い出すことで、改めて気付くことがたくさんあるでしょう」と空手道部の香川政夫師範。3.空手教室は週に2回、いずれも前半と後半の2クラスが行われる。2クラス続けて参加するほど、真剣な生徒もいるとか。子どもたちは空手を楽しみながら、礼儀作法もしっかり教わる。4.本日の先生。右から柴田将英さん、塚田晃成さん、菊池那津実さん。

大学から、面白いことを
発信していきたい。

学生チューターとは、大学の魅力を高校生に伝えるための団体。八王子キャンパスにはおよそ230名のチューターが在籍し、オープンキャンパスや学校見学の案内などを行っている。
「その中の50名ほどは並行して、5つの班に分かれて大学の広報活動に取り組んでいます」と話すのは、企画班の大村侑美歌さん。彼らは定期的集まり、大学を盛り上げるための様々なアイデアを形にしている。意見をまとめたり、企画を練ったりする作業は大変だが、2年生の原田祐未さんは「オープンキャンパス後にSNSで」今

日はていーぼー(八王子キャンパスのマスコット)に会えた「帝京に入りた!」などの高校生の書き込みを見ると、やる気が湧いてきます」と活動の成果が表れた時の喜びを言葉にしてくれた。
今は1、2年生が中心となって運営している企画班。星野浩大さんは「進行中の企画は、ほとんど先輩から受け継いだもの。『新生企画班でもこんなことができる』というところを見せたいです」と意気込む。さらに「他キャンパスの学生から『八王子は楽しそう』という声がかかるんです。今後は他キャンパスと一緒に面白いこともしてみたい」と大村さん。八王子発信の企画が、大学全体を盛り上げるかもしれない。



SCOTが大学を変える!?

これまで教員主導だった授業に、学生の視点を加えることで新たな変化を。ハイレベルな訓練を受けた学生たちによる、授業改善プログラム「SCOT」をご紹介します。

photograph: TAKEHIRO GOTO text: SATOKO NAKANO

SCOTの発祥地であるアメリカ・ユタ州のプリガムヤング大学から、ワークショップを行うために来日されたスーザンチエコ先生と談笑する、SCOTメンバーと帝京大学高等教育開発センター長の土持先生。

私たちが授業を
よくしていきたい!



これからの授業は、
学生主導の時代へ!

「SCOT」とは「Students Consulting on Teaching」の略称で、アメリカの大学で生まれた「学生による授業コンサルティング」のこと。訓練を受けた学生が他の学生に混じって授業を受け、その時間の情報を担当教員に提供することで授業改善に役立ててもらおう活動である。授業を評価するのではなく「先生が右に動いたら左の学生はそっぽを向いた」というように、学生目線から授業の様子を伝えるのが決まりだ。

高等教育開発センター長である土持ケイリー法一先生は、授業改善のための取り組みに関する学会でSCOTの存在を知った。そこで興味深い活動として大学に報告したところ、学長から「本学でも導入したらどうか」という話をもらい、実施する運びになったという。日本でSCOTの活動を開始したのは、帝京大学が初。土持先生は「今まで大学の授業は、教員主導で行われてきました。今は世界的に『学

生中心に行われるべき』という流れになっていきます。SCOTは、大学を変える大きな波になるでしょう」と話す。

彼らは与えられたものをこなすだけでなく、向上心を持って技術を上げることも余念がない。「シニア同士で『模擬コンサルティング』を定期的に行い、シニア以下の訓練生向けトレーニングプログラムにも、学生が考えた企画を盛り込んでいこうという話もしています」と話すのは、SCOTコーディネーターの長沼陽子さん。「先生や大学が変わるのを待つのではなく『私たちが彼らの中に生まれたら嬉しい』と話す土持先生の願いは、もう叶っていると言えるのかもしれない。



SCOTのシンボルである、オレンジのTシャツ。ワークショップやセミナーといった、対外的な活動時に着用。

SCOTの活動

4. フィードバック



担当学生がレポートを作成し、先生にフィードバックを行う。内容に関しては守秘義務があるので、双方の間でしか共有されない。

5. 終了

先生に学生目線からの授業の情報を提供し、今後の授業に役立ててもらおう。同じ先生から「来週も見てほしい」と依頼がくることも。

3. 授業参加



一般学生に混じり、5～10分刻みで先生や学生の動きをメモする。学生によってメモの取り方は様々。事前に教室の下見をする人も。

1. 依頼

先生から高等教育開発センターに依頼が来た段階で、授業や先生との相性を考えながらどの学生が担当するかを相談して決める。

2. 打ち合わせ



担当学生と先生が、1対1で打ち合わせをする。先生の要望などを聞き出した後、学生はレポートを作成してメンバー内で課題を共有。

SCOTメンバーの声



長沼陽子さん
外国語学部
外国語学科 4年

学びだけでなく、様々な物事を掘り下げよう。

SCOTを通じて、学びに対する意識が変わりました。物事を深く掘り下げようになり、興味関心の幅も広がったと実感しています。



安田光諠さん
経済学部
経営学科 4年

就職活動にも役立つ大切な力が養えました。

好奇心を持って楽しく活動しています。その中で得た礼儀作法やメールの書き方などは、就職活動において非常に役立ちました。



フェスで
伝えたいことを
考えよう!

Q. どんな組織体制でフェスを運営しているんですか？

A. 主要部門は2人だけ。
音楽祭の直前は眠れません(笑)

ブックイングや広報などの主要部門は、僕とアシスタントの2人で担当。開催前の10日間ぐらいは、ほぼ寝てないです。倒れるまで働き、起きてすぐに働くという感じでした。他にも約50人のコアスタッフと当日のボランティアスタッフが約120人います。

Q. 仲間や出演者とのエピソードを教えてください。

A. りんご音楽祭に出たことで
人気になったバンドも。

フェスの運営は大変なので、前年手伝ってくれていたスタッフが、翌年はお客さんになることもしばしば。それでも続けていると、協力して下さる方が集まってくる。じつは、りんご音楽祭に出演したことで人気が出たバンドも多いんですよ。

Q. Eight Fes を続けていくために大事なことは何でしょうか？

A. 組織としてのルール作りを
徹底することが大事。

一般的なフェスと違って毎年組織が新しくなると思うので、後輩に伝えていくためのルールやフォーマットをしっかりと作ることが大切。「音響のことは〇〇さんに聞く」など、人や地域とのつながりも含めてフォーマット化するといいですね。

古川 陽介さん

りんご音楽祭・瓦RECORD主催。「dj sleeper」という名前でDJもしている。2009年より、長野県松本市にて、りんご音楽祭を開催。出演者に無名の若手アーティストからUA、(仮)ALBATRUSなどのアーティストを描え、数年で6,000人規模のフェスに成長させる。長野県松本市在住。

“Eight Fes”の育て方を教えてください。

長野県松本市発のフェス“りんご音楽祭”。実行委員長の古川陽介さんに、今年の夏、八王子キャンパスから始まった音楽フェス“Eight Fes”の育て方を聞きました。

photograph: MOEKA HIRAI text: YU MIYAKOSHI

“Eight Fes”とは？

「音楽でひとつになる瞬間を、帝京大学でも体験したい」という思いから生まれた、帝京生による帝京生のための音楽フェス。今年の8月に初めて開催され、八王子キャンパスの学生が企画・運営を行った。



フェスを通じて何を伝えたいかを考える。

「松本には、昔から市民の憩いの場になっているアルプス公園という公園があるんです。以前から、「ここでフェスをやったら気持ちいいだろうな」と考えていました」と話すのは、りんご音楽祭の実行委員長をつとめる古川陽介さん。

「松本をもっといい街にしたい、日本の音楽とアートを変えたい」という想いのもと、2009年にスタートした音楽祭は年々大きくなり、今年は延べ六千人の観客を動員するまで成長した。協力してくれる仲間も増えたが、古川さんが絶対に譲れないのがブックイング

だという。出演者は全て自分でライブを見て、声をかける徹底ぶり。今年はUAさんに出演してもらう為に5回も沖繩へ足を運び、ようやくOKをもらったそうだ。

古川さんは「フェス運営で大事なのは何を伝えたいかという想い」と話す。そのひとつとして、東日本大震災以前から原発に反対していたUAさんが今どんなことを考え、歌っているのかを伝えたいと思ったという。

「Eight Fesで何を伝えたいかを考え、それを具体化していく手順を先輩に伝えることと、運営方法をフォーマット化することで、スタッフが変わっても長く続くフェスになるはずですよ」



Special Contents.

みんなの大学祭。

photograph: KENTARO OSHIO



大学祭。それは1年を通じて、いちばん
キャンパスが熱気にあふれ盛り上がる時です。
何ヶ月も前から気合いを入れて準備してきた学生たちや、
当日の出店やイベントを心待ちにしている人々、
そして、どのキャンパスよりも素敵な大学祭を作るために
夏休みを返上して頑張ってきた実行委員たち。

“みんな”の想いが重なって、それぞれのキャンパスで
個性的で魅力的な大学祭が行われました！





アクシデントは2日目の台風だけです。

周りの方の温かい支援があったからこそ乗り越えられた。

●八王子キャンパス・青舎祭 企画局長

後藤亜矢子さん 文学部 社会学科 3年

帝京大学の大学祭の中で、最も大規模なのが青舎祭。特に目玉のお笑い・音楽ライブには、毎年多くの労力が費やされる。企画局長の後藤亜矢子さんは「この人たちを呼びたい!」という熱い思いを持った担当者と関係者の間に立ち、企画がまとまるまで、何度も話し合いを重ねた。その甲斐あって、1日目のスペシャルライブは大成功をおさめたという。「でも、エンディングライブが行われる2日目はまさかの台風。お笑いも音楽ラ

イブも野外ステージで行う予定だったのでギリギリまで粘ったのですが…中止になってしまいました」それでも急遽、台湾のアーティストであるリン・ユーチュンさんが室内でライブを行ってくださり、完全中止は食い止められた。「土壇場で、周りの方に助けられました。青舎祭を終え、仲間のやり切った顔を見ていたら涙が出ましたね」と後藤さん。予期せぬ事態を乗り越えて、彼女らはまたひとつ大きくなった。



右:当日は、朝早くから準備に追われる。手作りの看板を設置するのも、実行委員の仕事だ。「この日のために今まで頑張ってきた、と思える」と後藤さん。左:第1グラウンドで開催される「屋台王'13」むけてテントを組み立てる実行委員たち。意外と力仕事も多い。



実行委員が連携し、少数精鋭で成功させた帝祭。^{みかどさい}

●宇都宮キャンパス・帝祭 実行委員長

米田龍生さん 理工学部 航空宇宙工学科 3年

帝祭実行委員の苦勞は、とにかく少人数で企画運営を行わなければならなかったこと。委員長の米田龍生さんは総務局長も兼任し、学外とのやり取りからパネル制作まで広く担当した。「そんな状態のため、全体を把握する作業も本当に大変で。隅々まで確認し切れていないことも多かったんです」小さなミスが重なったが、その都度実行委員が連携して事なきを得たという。「いろいろありましたが、その分忍耐力

がつかました」と米田さんは笑う。そんな中でも盛り上がったのは、風船に夢を書いてもらい一斉に空へと放つ『リリースオブバルーン』。「来場者からも歓声が上がリ、楽しんでもらえた実感しています」と彼は満足そうな表情を見せた。夢を叶える過程では、努力や失敗も大きな経験になる。「くじけてもいいから夢を追いかけてほしい」という実行委員の思いも乗せた風船は、美しい弧を描いて空に飛んでいった。



右:色とりどりの風船が楽しい。来場者には風船に夢を書いてもらい、1-2日目ともエンディングで風糸を切って空に飛ばした。左:帝祭には、毎年地域の方がたくさん訪れる。子どもたちもゲームなどに参加し、思い思いの時間を楽しく過ごしていた。

実行委員に大学祭の裏話を聞きました。

大学の一大イベントである大学祭。その華やかな舞台の裏には、様々なドラマがあります。そこで4キャンパスの実行委員に、今年の“大学祭制作秘話”をこっそり教えてもらいました。

photograph: KENTARO OSHIO, TAKEHIRO GOTO, KAZUHARU IGARASHI
text: SATOKO NAKANO, RIE OCHI

キャンパス最後の思い出となる、特別な2日間。

●福岡キャンパス・帝京祭 実行委員長

岸原生幸さん 福岡医療技術学部 理学療法学科 2年

新キャンパスへの移転を控えて、現在の校舎では最後となる帝京祭の陣頭指揮を執っていた岸原生幸さん。「みんなの思い出になるようにと、“Enjoy Your Life”というテーマを設けました。地域の方々に協力してもらって伝統行事、大蛇山と太鼓衆響が目玉です」ステージ企画も一般参加できるように工夫。1000人のお客さんが訪れる盛況ぶりだったが、裏では事件もあった。「大蛇山を運ぶために屋根のない2tト

ラックを手配していたはずが、当日に手配ミスが発覚して…。間に合いましたが迷惑をかけたし、来年からできなくなったらと焦りましたね」ハブニングはありつつも、夏休みの合宿で培ったという団結力と数ヶ月の努力で乗り切ることができた。「合宿がなかったらバラバラでした(笑)。実行委員は大変だけど、達成感は格別。次からは新しい場所だし、後輩達には自分達の思い通りにやって欲しいです」



夏休みの合宿が団結の秘訣かも...



右:帝京祭の恒例イベントとなっている地元大牟田の方々による「大蛇山囃子」。学生の飛び入り参加もあり、盛り上がった。左:ありあけ新世高等学校の「てっばん部」が屋台を出店。こんなにやく入りのオリジナルお好み焼き「こんダゴ」を販売した。

土台を築上げた、帝桜祭の歴史に残る年。

●板橋キャンパス・帝桜祭 実行委員長

豊島永莉さん 薬学部 薬学科 3年

昨年は、新キャンパスで初めての大学祭を成功させることで精一杯だった板橋キャンパスの帝桜祭。今年は「認知度を上げる」という裏テーマのもと、実行委員が土台を築上げたため、苦勞もひとしおだったようだ。実行委員長の豊島永莉さんは「Ms & Mr コスチュームコンテストに関しても、手順がわからず難航しました」と語る。それでも、他大学の実行委員が集まる交流会に参加して情報交換をしたり、地域交流のために商店街

のゴミ拾いをしたりと、企画以外のことにも力を注いだおかげで当日はかなりの集客が実現。しかし、走り続けたが故にとんだハブニングも起こったそうだ。「実は、開会式と閉会式のことをすっかり忘れていたんです。慌ててくす玉を作ることにしたので、当日はちゃんと割れるかヒヤヒヤしましたね」結果は見事成功。愛情を持って育てた大学祭は、学内外から愛されるイベントとして認知度を上げたようだ。



右:たくさんの来場者と笑顔で触れ合う実行委員。「去年は学内でも帝桜祭の日程を知らない人がいるほどだったので、嬉しかった」と豊島さん。左:「やりたいことをやらせてもらう代わりに実行委員も働く」という条件のもと、帝桜祭当日も裏方のスタッフとして奔走。



終わった後だからこっそり話しちゃいます。



「青舎祭」「帝桜祭」「帝祭」「帝京祭」。
 帝京大学では、毎年、キャンパスごとに大学祭が開かれます。
 名称こそ異なるものの、キャンパスの特色と、

学生たちの持ち味を活かした“自分流”の大学祭は、
 どこも負けず劣らずの盛り上がりを見せてくれました。

例えば、医学部、薬学部、医療技術学部の集まる板橋キャンパスの
 「帝桜祭」では、医療体験や薬剤師体験、救急活動の公開演技が行われ、
 理工学部のある宇都宮キャンパスの「帝祭」では、
 ジェット機のcockpitに乗ることができるなど、
 その高い技術力が見どころの大学祭となりました。

ただ、個性あふれる各キャンパスの大学祭にも
 共通しているものがありました。それは参加する学生の笑顔！
 ステージでデモンストレーションを行う学生や
 大学祭を訪れた地域の方々にお声がけるサークルの人々、
 この日のために寝る間も惜しんで頑張ってきた実行委員、
 みんなカメラを向ければいい笑顔を見せてくれました。

今年の大学祭は終わってしまいましたが、それは来年に向けての
 カウントダウンが始まっているということ。

きっと、来年もみんなの素敵な笑顔が見られるはずです。

第2回 帝桜祭 2013/10/19&20 We'll come to TEIKYO



日本の救急システムを変える
きっかけ作りをしたい。

「パラメディック（救急救命士）として現場に出たばかりの頃はもちろんですが、それまでのプレッシャーも大きかったですね」
そう話すのは、救急救命士コースの成川憲司先生。アメリカで救急救命士の資格を取得した異色の経歴の持ち主だ。アメリカの救急救命士は日本と違い、制限はあるが医師とほぼ同等の処置を施すことができる。それを知り「より現場で何かできるようにになりたい」と思い渡米したが、待ち受けていた壁は想像を絶する高さだった。
「アメリカでは『一人前の救急救命士と同等の働きができなければ資格を与えない』というスタンスで徹底的に指導をされるんです。在学中に何度も課せられる試験や実務研修で、一定回数NGが出れば退学。ビザの関係で、モタモタしていると強制的に帰国させられてしまうという問題もあり、とにかく必死で学びました」

は退学。ビザの関係で、モタモタしていると強制的に帰国させられてしまうという問題もあり、とにかく必死で学びました」
血のにじむような努力を積み重ねて資格を取得しても、仕事で求められる英語力は格段に高く、就職先を探すにも苦労したという「民間会社に何度も足を運んだので、最後は相手も根負けしたんでしょうね」と笑えるのも、今だからこそだ。

「働き始めてからも、数々の壮絶な現場と対峙しました。アメリカは銃社会。恋人同士のケンカ程度で、発砲事件が起こることもあります。もちろん、こちらが巻き込まれる危険性も高い。そういう時はすぐに察知して警察を呼び、先に入ってもらいます。そういうとっさの判断力も必要なんです」

ふたつと同じ現場はないという。ゆえに技術や知識だけでなく、自分を守ることを含めた現場対応力がなければ救急救命士として機能しない。成川先生は現在、帝京大学で学内外の臨床実習を担当しながら、ときにアメリカ時代の話を交えて学生たちを奮起させている。「救急救命士には、心の強さや現場での臨機応変さ、そして患者さんのために何ができるか考えて行動するリーダーシップなど、幅広い能力が求められます。人命にかかわることなので、国家試験の突破だけを目標にしてほしくはない」
一方で、残念ながら日本のプレホスピタル（病院前救護）は欧米に比べて遅れている。手技や使える薬剤も限られており、救急救命士という職業自体、医師や看護師と比べ、まだ確立されていない状態だ。「この職業を確立させるために、プレホスピタルをよくしたい。学生たちにも『救急救命士は今後どうあるべきか』という大きな話を考えるきっかけを与えられたらと思います」と成川先生。現状に満足せず、よりよいシステムを求め、若い力が増えれば、日本のプレホスピタルは少しずつでもよい方向に向かうはずだ。

TEACHER'S STYLE.

先生に聞きたいあれこれ。

photograph: KAZUHARU IGARASHI text: SATOKO NAKANO

成川憲司先生 Kenji Narikawa

- 帝京大学 医療技術学部
スポーツ医療学科 救急救命士コース

1977年大阪生まれ。日本の大学を卒業後、アメリカ・カリフォルニア州のパロマカレッジEMT (Emergency Medical Technician) 科に入学。4年半の勉強・実務研修を経て、パラメディック国家資格を取得。その後、サンディエゴにある民間の救急会社「AMR」にてパラメディックとして勤務。帰国後は消防関連の研究施設を経て、救急救命士コースの開設に伴い帝京大学へ。

右：カリフォルニア州の救急救命士資格は2段階あり、最初のベーシックを取得すれば白、パラメディックに合格すると金のエンブレムが与えられる。「制服の左腕に光るエンブレムを見るたび、改めて『自分はパラメディックである』という自覚を持つんです」 左：ドロシー・ロー・ノルト、レイチャル・ハリス著『子どもが育つ魔法の言葉』（PHP 研究所）。世界中で愛され、日本でもベストセラーとなった本。子育てをしながら悩んだ時「参考になる本はないか」と探していた時に出会ったという。「ただ怒るだけではなく、褒めてあげる。学生たちの指導にも通じる言葉がたくさん詰まっています」





「決して安い買い物ではないため、お客様からの信頼が得られないと購入のご検討もしていただけないですよね。それが、この仕事の面白いところ。どう接客すればお客様に興味を持っていただけるか、自分なりに考えながら真摯に対応しています」

接客の仕事は、大学時代からの夢。アルバイト先の料亭で、質の高い接客をしていた先輩を見て憧れを抱いたのがきっかけだという。加えて彼は在学中、積極的に周りの学生に話しかけて友達の輪を広げていくほど社交性に富んでいた。接客業に対する適性は、当時からあったのだろう。「そうしてできた大勢の友達から刺激を受けながら、みんなの『いいとこ取り』をするような学生でした。自ら働きかけることで幅も広がり、いろいろな意見や考え方を取り入れることができるようになったんです。それは、今の仕事にも役立っているといえるかもしれません」

かつては日常着として、そして現在もハレの日の装いとして古くから親しまれている着物。手入れを怠らなければ何十年と着ることができ、母から子へと受け継がれることも珍しくない特別な衣装だ。ゆえに頻繁に買い替えるものではなく、呉服店といえば若手近寄りがない雲田気すら漂う。しかし、きもの「やまと」柏店店長の松本裕樹さんは「だからこそ、あえてこの仕事を選んだ」という。

お見立てした着物が、時を経て愛される喜び。

WHAT'S UP?

いま、何やってる？

photograph: TAKEHIRO GOTO text: SATOKO NAKANO

先日、嬉しいことがあったそうだ。彼が新人の頃に接客して着物を購入してくれたお客様が、現在の勤務先に立ち寄られた時のことだ。「お客様が、6年前に私がお薦めした着物を『今週末の結婚式で着るの』と言ってくださったんです。今も気に入っていただけている、と思うと嬉しかったですね」と松本さんは話す。学生時代に多くの人と接して培った様々な価値観は「お客様にとって最適な着物とは何か」を察する力の一端を担っていると思わずにはいられない。

着物は着る人だけでなく、それを取り巻く人々とも一緒に長い時間を重ねていく。接客・販売をした人も、その歴史の1ページに残る大きな存在といえるだろう。

きもの「やまと」柏店 店長

松本裕樹さん Yuki Matsumoto

帝京大学文学部心理学科'06年卒。東京都国分寺市出身。大学卒業後、きもの「やまと」川崎店に就職。その後、宇都宮店を経て柏店へ。'13年4月、店長に就任した。現在、2児の父でもある。

GOOD HEALTH.

健康が、いちばん。

text: SATOKO NAKANO illustration: JUNJI NAKAMURA



新見 正則 准教授 Masanori Niimi
帝京大学医学部 外科学講座
'85年、慶應義塾大学医学部卒業。慶應義塾大学医学部外科を経て、'93年より5年間、英国オックスフォード大学へ。'98年、移植免疫学にてDoctor of Philosophyを取得。'98年より帝京大学医学部外科へ。'02年より現職。西洋医が積極的に漢方を処方する「モダン・カンボウ」の啓蒙者。

A.

「冷えている」と感じたらそれが冷え性。自覚症状の問題です。病気ではないので基本的に問題はありませんが、不快な場合は改善させる方法があります。

Q.

「冷え性」とは、どんな状態のことを指すのですか？



生理学的に「冷え性」という病気はありません。体温が低いことも関係なく、本人の体感の問題なのです。子どもの体は温かくて、年を取るごとに冷えてくるのは当たり前のこと。よく「冷えが病気を引き起こす」と言われますが、そんなことはありません。確かに大動脈閉塞、貧血、甲状腺疾患などの病気は冷えを伴います。しかしその場合、冷えよりも先に別の症状が現れるはず。冷え性でお困りの方が診察にいらっしゃって、別の病気が見つかることは稀ですね。

冷え性の原因のひとつとして、交感神経優位ということが考えられます。交感神経は闘争神経なので、それが優位になると血しないように末梢の血管が縮まり、血液が末端まで届きにくくなって手足が冷えるという仕組みです。「冷えがひどくて眠れない」という方は、お布団に入ってから交感神経が優位のままの可能性があるので、お風呂でゆっくり温まり、リラックスすることで副交感神経を優位にしてから休むようにすることをおすすめします。

Q.

何に気をつければ冷えは防げますか？

A.

自分でできることがいくつかあります。

まずは生活習慣の改善も含めて、ストレスの原因を取り除きましょう。過緊張の状態が、交感神経を優位にします。加えて、エネルギーを作るために3食しっかり食べる。そしてお風呂では湯船に浸かるのも有効ですが、あがる直前に体に水をかけて、熱が体の外に逃げないように蓋をしてあげるとよいですね。普段の生活で体の熱を逃がさないためには、足首や手首を冷やさないことです。運動をして筋肉を付けるのも、冷えにくい体に近づくひとつの方法。それでも難しければ、冷えに効果的な漢方を病院で処方してもらいましょう。

Q.

どんなものが冷えを改善させてくれますか？

A.

自分に合うものを試して探しましょう。

冷え性は大きく分けると、末端型冷え性、全身型冷え性、更年期型冷え性の3タイプがあります。それによって症状を緩和させる漢方が異なりますので、医師に相談してみてください。また食べ物なら、湯通しをした生姜が体を温めてくれます。ただし、冷たい生姜にあまり効果はないですね。また、冬に採れる野菜は体を温めるといいますが、素材そのものよりも「温かくして食べる」ことの方が大切。サプリメントにもいえることですが、噂を信じるより、気になったら実際に試してみましょう。自分に合ったものが、必ず見つかるはずです。

Q.

イグ・ノーベル賞を受賞されたそうですが。

A.

環境が免疫に働きかけるという結果が出ました。

15年前、イギリスの研究室でネズミのお腹に心臓を移植する実験をしていました。通常は8日間で拒絶反応が起きるのですが、ドア付近にいたネズミにはそれがなく、15日間心臓が止まらなかったんです。その時「環境によっては延命が可能なのかもしれない」と感じ、帰国後、本学研究室で移植後のネズミに音楽を聴かせ続けたところ、同様の効果がありました。小さなネズミでも、環境変化で免疫が働くことの証明ですね。人間に対しても、病気を薬だけで治そうとするのではなく「生活の管理も大切」というメッセージに繋がると思っています。

Tue

①扇風機 ②風鈴 ③鍋 ④やかん
あまてたら下さい!!!

Fri ⑤の彼女

FLAIR WORKSHOP.
ワクワク企画が満載です。
photograph: KENTARO OSHIO text: SATOKO NAKANO

①宣言

宣言
「私はここに居ることに
満足している」
「私はここに居ることに
満足している」
「私はここに居ることに
満足している」

ヒマズミ
が楽しい

②ペルソナ像
今回の提案のターゲットは...

ふさが
苦痛な

利用が
少ない
には!!

③きっかけになったコース
あなたも、

④思いついたアイデア
そこで思いついた

自動販売機
のものは
ない!!

長居
したくなる

時間を持て余

⑥かかせないエッセンス
そのためには、

くつろげる
空間。

利用の
しやすさ

が必要だ、

空間プロデュース体験

これからの 帝京大学を
デザインしよう!

社会科学・浦野ゼミの2年生と3年生が、学内で好きな場所を
さらによくする“空間プロデュース”にチャレンジ。
みんなでアイデアを出し合ううちに、議論は熱を帯びていきました。

Q

ツクルバが考える
空間プロデュースって
何でしょう?

「僕たちのミッションは、場の発明」
今回のワークショップの講師である
ツクルバの中村さんはそう話す。
彼が考える、場の発明とは、ただ
飲食店やミュージアムといった「箱」
を作るのとは少し違う。例えば彼ら
が作った空間のひとつ、ノマドワー
カーのためのワークプレイス「cop
ba」は「最近カフェで仕事をして
いる人が多いな」という気付きから
始まった。「僕たちは、その「プレ

イヤの発見」くらいから関わって
いると言えます」と中村さん。

「サービスが世の中に溢れすぎてい
て、サービスに踊らされていると
感じる瞬間があるかもしれません。

それは、自分が受け手になっている
から。積極的に周りの環境にコ
ミットしていけば、面白い場作り
のきっかけが見つかるはずです」

せっかく4年間を過ごす場所だか
ら、与えられた場所をそのまま使っ
ただけではもったいない。「この場所
にこんな機能があったら」などと考
えて、発信してみれば、大学生活は
今よりもっと楽しくなるはずだ。

●今回の講師

株式会社ツクルバ 中村真広さん
建築の前段階＝枠組みのデザインに興味を持ち、不
動産会社、ミュージアムデザイン事務所を経てフリー
に。2011年に(株)ツクルバを創業し、場の発明を通じ
たソーシャル・キャピタルの構築を目指して活動中。



MELICを楽しむアイデア

「ひとことで言うと
時間を持て余すヒマがないよ
な帝京ライフです！」



「本を読んだり課題に取り組んだりする人たちが集まるMELICを、もう少し自由に使えたら授業の空き時間も楽しいと思います。今は飲食禁止ですが飲み物はOKにしたり、地下1階だけは日によって違う音楽をかけるなどの工夫をすれば、学生も興味湧いてくるはず。なんとなく考えていたことを、具体的にしていくなかで面白かったです」

左から北澤彩子さん(3年) / 井上樹さん(3年) / 田口沙耶さん(3年) / 天野喬介さん(3年)

各グループのアイデアを見よう!

「学生の力で大学を変えるなんて不可能」昨日まではそう思っていた彼らも、作業を通じて「自分たちにできる何か」を深く意識する時間になったようです。



帝京大学を楽しむアイデアを考えよう!

「場を作るって、どういうことだろう?」プロセスがわからない状態の学生たちも、中村さんにアドバイスをもらいながら大学を楽しむアイデアを考え始めました。

1. まずは自己紹介

初めに自己紹介を兼ねて、配られたボードに「大学内でお気に入りの場所」を記入。書き終わったら発表していく。「MELIC(メディアライブラリーセンター)」と「学生ラウンジ」が人気のようだが、同じMELICでも「3階トイレ側の窓際」「パソコンが使える2階」など、それぞれお気に入りの場所に個性が。「自分の好きなことを受け入れてくれる場所、という点が共通していますね」と中村さん。



学生ラウンジを楽しむアイデア

「ひとことで言うと
気分はパリジェンヌ
な帝京ライフです！」



「スポーツのイメージが強い帝京だけど、文化系の人にとっても居心地のいい空間を作りたくて、ラウンジをオシャレにすることを考えました。高級感溢れる内装、有名コーヒーチェーン店の訪問販売、お手軽な利用料。そうすることで、新入生増加にも繋がると思っています。みんなの意見を聞いていて、アイデアがたくさん出てきました」

左から広沢亮さん(3年) / 長瀬梨沙さん(2年) / 野田翔子さん(2年) / 瀧美穂さん(3年)

MELICを楽しむアイデア

「ひとことで言うと
人の多さは 考え方は まさに自分流
TDL 差別 かな帝京ライフです！」



「MELICをくつろげる場所にしたい」というところから、学生主体で実現していく方法を考えました。例えば企画は社会学科、金銭の管理は経済学科、探検でいられる空間として畳の部屋を作る時には日本文化学科に協力を仰ぐなどすることで、学科間の交流もできます。大学をよくするアイデアを出すのは、いい経験になりました」

左から赤岡美奈さん(2年) / 大竹一希さん(3年) / 伊藤真祐さん(2年) / 竹田衣織さん(3年)

3. アイデアを練ろう

自己紹介中にメモしておいた「価値観が似ていると思う人」をもとにグループ分け。ワークシートに、メンバーの意見を書いた付箋を貼りつつ、アイデアを形にしていく。思っていた問題を口にしてみたら意外と同調意見が多かったり、ぼんやり考えていたことに別の意見が加わることでアイデアが輪郭を帯びたりと、面白い化学反応が各所で見られた。しかし、まとめる作業に苦戦し、時間が足りない!



4. プレゼンしよう!

ワークシートを用いて、みんなの前でプレゼンテーション。「宣言」となるキャッチフレーズの作成にみんな苦戦したようだが、それぞれ個性あふれるメッセージができあがった。「場」をどうしたいか、ターゲットは誰か、そのために何が必要か、その結果どうなるか...といった風に、筋道を立てて発表していく。他の班の斬新な意見を聞いて、思わず感嘆の声があがる場面も。

2. 場の発明って!?

中村さんによる「ツクルバ」の活動紹介に加えて、これから始まるワークショップのエッセンスとしてスライドレクチャーが行われた。例えば「こういう空間を作りたい」ということだけを考えるのではなく「どう使ってもらおうか」という運用の面までトータルに考える、自分たちだけでなく周りの人も巻き込んで大きな力を作ることにも目を向ける、など思いもよらない視点に学生たちは興味津々。



NEXT WORKSHOP

第18回開催予告

フードスタイリスト飯島奈美さんと 東北被災地の食材を使った料理を作ろう!

帝京大学では、東日本大震災の被災地を訪れ、ボランティアや地域活性化に関する活動などを行う「東日本大震災に学ぶ特別教育プログラム」を毎年実施しています。今回のワークショップは、このプログラムに習って東北被災地の食材を使った料理を、フードスタイリストの飯島奈美さんと一緒に作ります。



Nami Iijima

CMなど広告を中心に活動。映画「かもめ食堂」、「そして父になる」などのフードスタイリングを手がける。NHK連続テレビ小説「ごちそうさん」のフードスタイリングも手がけている。

●開催日 2014 2.9 (SUN)

●開催場所 都内スタジオ
(中目黒・渋谷周辺の予定)
※変更する可能性があります

●応募の仕方

応募は下記アドレス宛にメールにてお申込みください。
workshop.flair@gmail.com

本文に(1)名前(2)学部学科・学年(3)電話番号を記入し、送信してください。折り返し、応募受付確認メールをお送りします。

※応募者多数の場合は抽選となりますのでご了承ください。※ドメイン指定受信・拒否等の設定を行っている場合は、workshop.flair@gmail.comからの電子メールを受信可能な状態に設定してください。

系 誌 専 大



好きな場所をもっとよくするには、どうしたらいいか考えてもらいました。それはマイナスをプラスにするのではなく「プラスの状態をもっとよくする」ということ。普段おぼろげながら「こうなったらいいのにな」と思っていることを大学に求めている部分もあったと思うのですが、それを自分たちで変えようとした時に、学生目線で独特のアイデアが出てきて、とてもよかったですね。

Editor's Note

仲間と一緒に夢をかなえたい。大学の魅力を多くの人に知ってもらいたい。多くの人にイベントを楽しんでもらいたい。大学生活をもっと豊かにしたい。帝京大学の自分流は各キャンパスでさまざまなかたちで表現されています。それぞれの目標を達成するため、個々で考え、仲間と話し合い、時にはぶつかり合いながら成長していく過程で一人ひとりが自分流を見つけていました。私も取材を通して、人との出会いやさまざまな体験が今の自分を形成していることに改めて気付きました。多くの出会いがある大学時代、未来の自分のためにさまざまな自分流に触れてみましょう。



photograph: JUNSUKE OBI

Flair

vol.92

December 2013 Winter
THE TEIKYO SELF

direction & edit & design
Mo-Green Co.Ltd.
publisher
TEIKYO UNIVERSITY
cover photograph
KENTARO OSHIO
cover illustration
JUNJI NAKAMURA

発行月:2013年12月(年4回発行)
発行:帝京大学本部広報課
〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1
TEL:03-3964-4162 FAX:03-3964-9189
E-mail:post@med.teikyo-u.ac.jp
URL:www.teikyo-u.ac.jp
© 帝京大学 2013 禁・無断転載

News

2014年4月、新福岡キャンパスが誕生。

2014年4月、有明海を一望できる自然豊かな大牟田市坪町に新福岡キャンパスが誕生。こちらには既存の理学療法学科、作業療法学科に加え、看護学科、診療放射線学科を新たに開設し、幅広い教養教育を通してチーム医療の中核として活躍できる看護師、診療放射線技師の養成をめざす。充分な自然採光が得られる講義室などの良好な学習環境と、充実した施設や設備を活用することで高度な専門知識を身につけてもらうことが狙いだ。



現在建設中の新福岡キャンパス

Report



「東日本大震災に学ぶ特別教育プログラム」の事後報告会を実施。

10月28日、「東日本大震災に学ぶ特別教育プログラム」事後報告会が八王子キャンパスで開催された。参加者の一人である観光経営学科3年の横田風仁さんは、中学校の校庭に設置されている仮設住宅を訪問し、講演会とレクリエーションを企画した体験を語るとともに、「我々学生にできるこ

とは、現地で体験したことを基に学生視点の柔軟な考えや、提案につなげていくことだ」と述べた。このプログラムも開始から3年目となり、被災地の状況やそれを取り巻く環境には大きな変化が見られる。今後も、被災地の現状やニーズに応じた活動を検討・実施していく予定だ。

Report

「インターンシップ成果発表会」を八王子キャンパスで開催。

11月19日、インターンシップの成果を発表する「インターンシップ成果発表会」が八王子キャンパスで実施された。今回は、インターンシップに参加した129名の学生、56名の受入企業の担当者、担当教職員35名が10グループに分かれ、学生が一人ずつインターンシップで学んだことや今後の課題についてプレゼンテーションスピーチを行った。どの学生も自信に満ち溢れた表情でスピーチをし、実習を通じて成長した姿を見せた。スピーチの後には受入企業担当者様からのコメントをいただいた。この経験は、これから本格化する就職活動へ生かされそうだ。

Award

空手道部、『全日本大学選手権』の3部門で優勝。

11月17日、『第57回全日本大学空手道選手権大会』が東大阪アリーナで開催された。本学空手道部は、団体組手で男女ともに順調にトーナメントを勝ち上がり、女子が優勝、男子が準優勝を果たした。女子団体組手での優勝は今回で5回目。また、団体形の部も危なげなく予選を通過し、男子団体形、女子団体形で6回目となる優勝を果たした。本学空手道部は3部門で優勝、1部門で準優勝という好成績を残した。さらに、本学空手道部から4年の五明真美子、染谷香子、3年の野口雅浩、植草歩、2年の石塚将也の5名が大会優秀選手に選ばれた。今後も空手道部の活躍に期待したい。

Award

本学職員がキックボクシングの大会で新王座に輝く。

10月26日、後楽園ホールで行われた日本キックボクシング連盟主催ウェルター級タイトルマッチにて、本学職員の松本喜富さん(リングネーム:Yoshitomi)



が見事新王座に輝いた。試合後Yoshitomiさんは、「皆さんのおかげでベルトを巻くことができました!ありがとうございました」と、涙を流した。

News

いわき市立総合磐城共立病院と医師派遣に関する協定を結ぶ。

本学は、東日本大震災の復興支援の一環として、福島県の災害拠点病院で、初期被ばく医療機関であるいわき市立総合磐城共立病院と医師派遣に関する協定を締結した。この協定は、本学の坂本哲也教授(救命救急センター)の東日本大震災にかかわる活動がきっかけとなり、厚生労働省からの要請のもとに実現。本学は、7月より毎月1週間、救命救急センターの医師を交代で現地に派遣し、地域医療の充実を通じて被災地支援を続けていく。

News

『第90回東京箱根間往復大学駅伝競走』に本学、駅伝競走部が出場。



2014年1月2日、3日にかけて行われる『第90回東京箱根間往復大学駅伝競走』に本学駅伝競走部が出場する。昨年度は総合4位、シード権獲得と躍進の年となった。中野監督の指導のもと、力をつけてきた彼らに期待したい。

Report

書道部に『Flair』の制作にご協力いただきました。

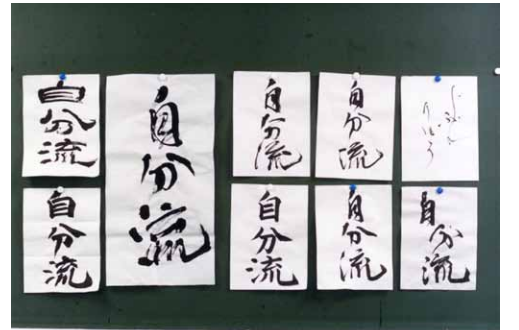
今号の特集は「学生達の“自分流”」。タイトルにもなっている“自分流”とは帝京大学の教育理念で、生き方の哲学そのものを表す言葉です。自分のなすべきことや興味のあることを見つけ出し、個性を生かすために知識や技術を身につけ、自分の力として行動すること。帝京大学では、開学以来ずっと“自分流”の生き方ができる学生を育てたいという思いのもと、サポートを続けています。今号の特集には、自分の好きなことや夢中になれることに真剣に向き合いながら、“自分流”を実践している学生が大勢登場してくれました。

そして、この“自分流”というテーマを表現するために、書道部の方々にさまざまな書体で「自分流」という文字を書いていただき、撮影したのが右上の写真です。同じ文字でもそれぞれの個性の違いが表現されていて、ひとつとして同じ形がありません。まさに“自分流”の書。

帝京大学書道部は、今年、「学生書道のグランプリ」といわれている全日本高校・大学生書道展において団体賞で9位、4年生の大石麻里さんが書道展大賞を受賞、3名が書道展賞、7名が優秀賞を獲得するなど、近年めきめきと力をつけてきた注目の部活です。部長の高良聡美さんは、「以前、『Flair』の部活ページで書道部を取り上げていただきました。今回、また協力できてとても嬉しいです」と話してくれました。

さて、帝京生がどんな形で“自分流”を実践しているかは、特集ページでお楽しみください。

Notice Board.



撮影に協力してくれた書道部のみなさん。顧問をつとめるのは、文学部 日本文化学科専任講師の福井淳哉先生。

News

ラグビー部、前人未到の5連覇を目指して。

12月8日から『第50回全国大学ラグビーフットボール選手権大会』のセカンドステージが始まった。昨年度、史上初の大学選手権4連覇を達成した本学ラグビー部は、今大会で、15大会連続21回目の出場となる。全16チームが4チームずつ4グループに分かれて総当たり戦を実施するセカンドステージは、各グループ1位の計4チームがファイナルステージ進出権を獲得する。今季は、関東大学リーグ戦3位の大東文化大学、関西大学リーグ4位の関西学院大学、そして、ファーストステージ1位の朝日大学と同グループ。まずはファイナルステージに進出し、前人未到の5連覇をめざす。

●全国大学選手権スケジュール(フェーズ2 & 準決勝・決勝)

	日程	対戦相手	会場
第一戦	12月8日(日)	朝日大学	秩父宮ラグビー場
第二戦	12月15日(日)	関西学院大学	近鉄花園ラグビー場
第三戦	12月22日(日)	大東文化大学	秩父宮ラグビー場
準決勝	2014年1月2日(木)	未定	国立競技場
決勝	2014年1月12日(日)	未定	国立競技場

試合開始時間、対戦相手等は日本ラグビーフットボール協会HP、<http://www.rugby-japan.jp/>でご確認下さい。